

■ 全教員で取り組むが成果確認は担任が行う 無印 担任が取り組む

学校 教育 目標	中期経営目標 (2つの数字 は経営方針の番 号)	短期経営目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
か し こ く	○教員の資 質向上 (2)	①■返事をし、「です」「まず」「思います」「からです」など、語尾までしっかりと言うことのできる児童を育成する。	○話型を各教室に統一して掲示し、返事から発言の最後まで、はっきりと話すことができるよう指導していく。 ○全校朝会等で呼名された際に返事をするよう各学級において指導を行うとともに、返事をした児童を称賞し、行動の価値付けを行う。 ○教職員も、呼名される機会があった際にはしっかりと返事をし、子供に範を示す。	A身に付いた児童が80%以上 B身に付いた児童が70%以上80%未満 C身に付いた児童が70%未満					
		②■自分の考えをはっきりと伝えることのできる児童を育成する。	○発問を工夫し、全員が挙手できるような場面に授業に取り入れる。 ○全学級で「話すルール」「聞くルール」について掲示したうえで折に触れて指導し、児童がお互いの意見を傾聴する態度を育成する。 ○教師が模範を示しつつ、子供の発言を最後まで聞く姿勢をもつ。	A自分の考えを音声言語として伝えられる児童が80%以上 B自分の考えを音声言語として伝えられる児童が60%以上80%未満 C自分の考えを音声言語として伝えられる児童が60%未満					
		③学年配当の漢字の読み書きと基本的な計算の仕方を身に付けた児童を育成する。	○漢字・計算練習について、小テストなどで合格基準を設定したうえで成果確認をし、結果に応じて家庭学習をさせるなど、繰り返し練習させる。 ○朝学習の時間、家庭学習等の機会に、前学年までに配当されている漢字の読み書き、計算の復習も取り入れる。 ○漢字指導の際、成り立ちや使い方、関連して一度に覚えた方がよいものについて教師が意識的に指導し、漢字学習への興味を高めさせる。	Aクラスの90%が成果確認問題の合格基準の8割を達成 Bクラスの70%以上90%未満が成果確認問題の合格基準の8割を達成 C成果確認問題の合格基準の8割を達成した児童が70%未満					
や さ し く	○人権教育 の充実 (1) ○道徳教育 の充実 (5)	④■仲間外れや相手の嫌がる言葉遣いなどのいじめをしない児童を育成する。	○年3回「いじめアンケート」を実施し、聞き取りを丁寧に行い、全職員で予防策・早期発見に努める。 ○人権月間に、ビデオ・DVD教材を活用し、自分や他の命を大切にしようとする児童の態度を育む。 ○5年生全員とスクールカウンセラーの面談を実施し、可能な限り給食交流も行う。 ○毎学期の担任との全員面接の際には、交友関係についても丁寧に関き、いじめにつながるような案件には早期対応を心掛ける。	A把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が0 B把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が3件未満 C把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が3件以上					
		⑤■自分を大切にし、自分に自信もてる児童を育成する。	○自尊感情調査を実施し、特に数字の低い児童においてはそれぞれにあった自信の持たせ方を教職員で共有する。 ○学期に一回の担任による全員面接の際、児童の長所を一人一人伝えることで自己肯定感を高めさせる。 ○児童の様々な表現活動を交流する場を設け、友達のよさを伝え合い認め合い、互いを大切にしようとする態度を育む。 ○日頃から、保護者と密に連絡を取り合い、児童のよさや、つまずきを共有し「励ますポイント」を共有して児童に自信をもたせるようにする。 ○縦割り部活動の際はリーダーとなる学年に、低学年の子供たちを励ますようなかわり方ができるよう、毎回必ず指導する。	A自己受容評価1点台の児童が全校児童の10%未満 B自己受容評価1点台の児童が10%以上15%未満 C自己受容評価1点台の児童が15%以上					
		⑥■すれ違った先生や外部の方に、場に応じた(明るく元気に・一度あいさつした人には黙礼など)挨拶ができる児童を育成する。	○各学級で「あいさつ宣言」を作成し、廊下に掲示して、あいさつについての自覚を高めさせる。 ○校長講話であいさつに特化した話をする。とくに高学年の自覚を高めさせる。 ○朝会時、6年生が輪番であいさつの声掛けをし、全校児童に範を示す。 ○あいさつ運動の取り組みを拡充する。 ○黙礼については、高学年には特に繰り返し指導する。 ○教職員が自ら範を示す。	A90%以上の児童が身に付いている B80%以上90%未満の児童が身に付いている C身に付いている児童が80%未満					
げ ん き よ く	○心と体の健康教育の充実(3)	⑦基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。	○毎日の外遊びを励行するとともに、元気アップタイム、短縄月間の取り組みを充実させる。 ○東京都の体力テストの結果を分析し、とくに苦手な種目について、特化した改善への取り組みを実施する。	A元気アップタイムや短縄月間の取り組みに意欲的に取り組んでいる児童が90%以上 B元気アップタイムや短縄月間の取り組みに意欲的に取り組んでいる児童が70%以上90%未満 C元気アップタイムや短縄月間の取り組みに意欲的に取り組んでいる児童が70%未満					
		⑧■好き嫌いをしないで給食を食べる児童を育成する。	○校長講話で、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発をする。 ○発達段階により、黙って食べる「もぐもぐタイム」や、「完食シール」発行などの、具体的な取り組みを実施する。 ○給食指導目標を基に、各学級で声かけをし、残菜減量に向け声かけをする。 ○給食週間を各学期1回設定し、特にその期間は、食への興味を高め、残菜を減らせるような声かけを担当がする。	A給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が80%以上 B給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%以上80%未満 C給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%未満					

達成状況の指標 各項目の評価指標を参照